

あかしん

クロスメディアを総合力でプロデュースする

PTC GROUP

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500
http://www.handa-cp.co.jp

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861 企画・制作：株式会社 新聞ビル

元氣のでてくる「ことばたち」

199

村上信夫



Nobuo Murakami

がいけないと自分は成り立たない。プライベートでも人を呼んで料理をふるまい、人の一番いい表情を引き出して、気分よく帰ってもらいたいと思っ

にならねばと常に思う。そして、面白いネタを考えて、ウドちゃんをさらに輝かせたいとも思う。台本は、天野さんが綿密に書く。1人で集中して書く。ウドちゃんのところは完全に当て書きだ。だが、ウドちゃんは、台本通りにはやってくれない。それ

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」(毎週日曜10:00~)、月刊『清流』連載対談~ときめきトークなどで、新たな境地を開いている。各地で『ことば磨き塾』主宰。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『嬉しいことばの種まき』『ことばのビタミン』(近代文藝社)『ラジオが好き!』(海竜社)など。趣味、将棋(二段)。http://murakaminobuo.com

ウド鈴木を輝かすのは天野ひろゆきしかいないわけだ。天野ひろゆきを輝かすのも、ウド鈴木しかいない。

矢島さんの存在を忘れない

天野さんの人生で忘れられない人が、元マネージャーの矢島秀夫さんだ。矢島さんと出会わなければ、今の自分は100%ないと思う。

誰かがいないと僕はいない

天野ひろゆきさん

天野さんは、自他ともに認める「平成の徳川家康」だ。同じ三河の岡崎出身で、手や足の長さ、いや短さもそっくり。手相も感情線と頭脳線が一本に重なっているところが家康と一緒にいたい。ちなみに天野さんが好きだというところも一緒だ。子どもの頃から、クラスメイトの前で面白いことを言っていて笑わせていた。落ち着きがなく、いつでもどこでも喋っていた。尾崎豊が大好きだった。『15の夜』を聞いて、このまま当たり前に卒業することに疑問を感じ、卒業式に行かなかった。3年間無遅刻無欠席で、交通事故に遭っても頬を腫らしながら行ったのにもかかわらず。だが、自分が行かなかったことに気づいた人はいなかったというの、この話のオチ。

が味になる。ウドちゃんがちよつと忘れたり、囁んだり、独特の間があるほうが面白い。未だにウドちゃんの底が見えない。底なしだから面白い。ウドちゃんも、天野さんのことをいろいろ形容している。「織姫」「女神」「天使」「観音様」：ウドちゃんらしい形容だ。ウドちゃんは、死ぬまで天野さんとコンビを組みたいと言っている。

「現場で愛されていた人ですね。自分の主張を押しつけず、僕たちに何がやりたいんだって、いつも聞いてくれて、タレント側に寄って交渉してくれました。デビュー当時、ウドちゃんのキャラクターが際立っていたので、ウドちゃんにしか来なかった仕事でも、矢島さんが頭を下げて、僕も入れてもらえないかと頼んでくれたんです。年が結構いったから、現場で一目置いてももらえる存在だったと思います。事務所でも漫画本ばかり読んでる人でしたけど、僕らをなんとか売ろうということになって矢島さん自身も変わったんです。同じ目線で見てくれて、ウドちゃんとしょっちゅう子どもみたいな喧嘩をしました(笑)」。

天野さんは、誰かのために全身全霊を尽くすタイプだ。誰か

でもてなす。人のためのように見える。結局は自分のためでもある。緊張している人には、動きや言葉をシクシクさせて安心させたり、逆にプレッシャーをかけたり。でも、この人はこうだと決めつけたくない。事前の情報を入れないことが多い。先入観を持つことを好まない。

矢島さんが病魔に打ち勝てず亡くなったことは、天野さんにとつて痛恨の極みだ。未だに携帯電話に登録した矢島さんの番号を消せずにいる。



俳画/イネ・セイミ

インディアンフルート教室
開講いたします。
誰でも簡単に音が出せる楽器です。あなたも今日からインディアンフルートを奏でる姿が楽しめます。

講師 イネ・セイミ
(日本インディアンフルートサークル協会ディレクター)
レッスン・30分3,500円 会場・半田市柳ヶ丘
申込み 0569-89-7127
お問合せ seimi@oasis.ocn.ne.jp

俳画教室開講中
常滑屋
とき 俳画教室月二回 午後一時~三時
会費 一回 二,二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五九六九三三〇四七〇

嬉しいことばの種まき
好評発売中

「現場で愛されていた人ですね。自分の主張を押しつけず、僕たちに何がやりたいんだって、いつも聞いてくれて、タレント側に寄って交渉してくれました。デビュー当時、ウドちゃんのキャラクターが際立っていたので、ウドちゃんにしか来なかった仕事でも、矢島さんが頭を下げて、僕も入れてもらえないかと頼んでくれたんです。年が結構いったから、現場で一目置いてももらえる存在だったと思います。事務所でも漫画本ばかり読んでる人でしたけど、僕らをなんとか売ろうということになって矢島さん自身も変わったんです。同じ目線で見てくれて、ウドちゃんとしょっちゅう子どもみたいな喧嘩をしました(笑)」。

山崎方代をめぐって (8) 杉本武之

◎長倉禮子さんからの贈り物
 今回は、方代と親しかった歌仲間、長倉智恵雄の次女であり、私の友人の長倉久子さんの姉である長倉禮子さんの文章を紹介いたします。私は、平成24年(2012)12月に『ラヴェット自伝(青春編)』を翻訳し、近所の印刷屋で製本してもらいました。長倉久子さんの姉の禮子さんにその冊子を贈呈する時に、これまで書き留めておいた「山崎方代をめぐって」もコピーして同封しました。

数日後、お姉さんから手紙とともに思いがけない贈り物が届きました。「深い想いをありがとうございました。天に帰って行った父も、妹も、身近な地上に降りてきてくれて、今はいつも一緒にいてくれます。」
 瑞泉寺の大下一真さんの本と、父の歌集を送らせて

「深い想いをありがとうございました。天に帰って行った父も、妹も、身近な地上に降りてきてくれて、今はいつも一緒にいてくれます。」
 瑞泉寺の大下一真さんの本と、父の歌集を送らせて

この指とまれ (230) 氏原朝信
 昭和51年度 三年三組の学級通信「なかよし」
 常滑小学校 颯子の読書
 時には静かに読書
 M・A女の母
 明治45年に発行された長塚節の「土」の序文を夏目漱石が書いている。その中で本書を自分の娘に読ませたいといっている。なぜかといえば、「何も考えずに暖かく成長した若い娘の起こす菩薩心や宗教は、みなこの暗い影の奥から射してくるのだと固く信じているからである」と。つまり漱石は、小作人という貧農が社会を測る尺度の基準であり、人間の原点であって、そこから射してくる影が人

いただきです。『多聞』は残部がほんの僅かになってしまい、これからは入手困難になるかと思えます。『野葡萄』の方は、まだあります。(2012年12月17日)
 瑞泉寺(山崎方代の葬儀が執り行われた鎌倉のお寺)の住職・大下一真著『山崎方代のうた』、お父さんの歌集『多聞』『野葡萄』とともに、お姉さんが書かれた「方代さんのこと(1990年5月1日)」がコピーされて送られてきたのです。



長倉禮子さん

山崎方代の面影を伝える貴重な記録だと思いますので、全文を引用します。
 (20)「方代さんのこと」(長倉禮子)
 ・折から甲斐路の春は深く天まで桃の花盛りなり
 山梨県立女子短期大学に赴任したその日から、方代さんのこの歌は私の研究室

光太郎、E・ブロンテ、モーパッサン、リルケ等で全く戦争と関係のないものでした。新聞紙で表紙をカバーして順番に回し読み、入手方法は不明でしたが、切れ間なく続きました。軍の統制のきびしかった時代に敵国の文学書はひそかに若い人たちに読まれていて、

の壁に掛かっています。もう40年以上も昔のことになりませんが、私の家に横浜の方から来たという汚い身なりのおじさんが住み着きました。といつても、度々出没しては、一度に滞在し

たのは長くても1カ月ぐらいいで、ある日ひょっこり現われ、またある日卒然と消えてしまふのでした。なんでも父たちのやっていた新しい文芸運動の仲間の一人で、定職を持たない浜の風

スターを貼る仕事をこのおじさんに頼み、母と祖母はご飯を食べさせたり、衣服をあげたりして何くれとなく面倒を見ていました。幼かった私と妹は、おじさんにすっぴり懐いて、ポスターを貼る仕事をこのおじさんに頼み、母と祖母はご飯を食べさせたり、衣服をあげたりして何くれとなく面倒を見ていました。幼かった私と妹は、おじさんにすっぴり懐いて、ポ

夢やなげきも語られていました。平和な現代でも、飢えの年代はきつと誰にもあるでしょう。その時、自分を満たしてくれるものは人によって様々でも、時には静かに本を読んで、影の奥から射してくるものを見つめてほしいと思います。

たい放題、言いたい放題だな」と言ったりしました。方代さんの話は楽しかったのですが、いつも大きい話になりました。ある時は鎌倉に小さいながらも楽しい我が家がありました。と嬉しそうに話し、「あたしや鎌倉ではいっぱしの名士なの」と言っていて「おほ、」と笑いました。「また、方代さんのホラがー」と私たちが本気にしませんでした。山崎家のお墓を郷里の右左口村に建てた、と報告に来たこともありました。

いつのころからか、父は短歌とは疎遠になっておりました。私も妹もそれぞれ道へ進み、祖母も母も他界してしまい、方代さんは姿を現わさなくなって久しく、私たちの間で話題に上ることもまれになっていきました。ところが、数年前の夏のある日、父の昔の仲間の一人がひょっこり訪ねてきて、方代さんからという手紙を置いていきました。「うた」の全国大会で日本平に来ていたから、ぜひ会いたいという内容でした。父は、たまたま夏休みで家に帰っていた妹と一緒に

日本平ホテルへ行きました。あわて者の父は、興奮して方代さんとおぼしき人の手を握りましたが、それは人違いで、御本人は白いスーツを着て、後ろから現われて来たそうです。「方代さんたら、紳士然として、すましやうて」と妹は言っていました。

した。ほかの子は、ボールムシを見つけていました。クワガタ虫のような虫を見つけた子もいました。

戦地で鉄砲玉に右目を奪われました。九死に一生を得て、戦後3年経って復員して来た時は30歳でした。青春をすっかり戦争に取られてしまったのです。吉野秀雄さんは、方代さんについて、こんなふうには詠っています。血走れる君がまなこは戦傷のためと今日聞きわれ畏まる

以上が、久子さんのお姉さんが、今から25年前に書いた山崎方代の思い出の記です。

「杉本武之プロフィール」
 1939年 碧南市に生まれる。
 京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。
 〈趣味〉読書と競馬

常滑市民文化会館
 ◎常滑市民文化会館
 ▼第60回常滑市美術展 表彰式、十七日(開会) 午後一時(閉会) 関係者(ホール舞台上) 問合せ 常滑市教育委員会生涯課 35-5111
 ▼平成27年度常滑市戦没者合同慰霊祭及び遺族大会二十三日(開場) 午前九時五分(開会) 同十時(午後十二時) 関係者 問合せ 常滑市社会福祉協議会 43-0660
 ▼常滑市文化協会 邦楽のつどい二十四日(開場) 午前十時半(開演) 同十一時(入場無料) 問合せ 常滑市文化協会事務局 35-2920
 ▼八木美知依作曲研究演奏会三十日(開場) 午後五時三十分(開演) 同六時(同八時四十分) 入場無料 問合せ 八木美知依作曲研究室 34-5127(八木)
 ◎常滑市立図書館
 ▼らびがき会展水彩画(八日) ◎あじさいグループ展(水彩画はがき絵) 九日(出) 十一日(入) ◎炎友会とその友人展(焼き物写真、墨絵、俳句等) 二十二日(入) 六月二日(出) ◎とこなめ陶の森資料館 ◎企画展 常滑焼の窯道具展(二十四日) ◎企画展 木型土型石膏型展(三十日) ◎七月二十六日(開場) ◎中世から現代の常滑焼(常設展) ◎常滑市体育館 ◎春季市民剣道大会(三日) ◎空手道競技大会(五日) ◎常滑市健康づくりフェスティバル(九日) ◎東海少年少女レスリング選手権大会(十日) ◎常滑市民バスケットボール大会(十七日) ◎愛知県高校総体バスケット

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!
 GWの思い出作りにオススメ
簡単! こいのぼりケーキ
 端午の節句に市販のロールケーキを使って
 お子さんと一緒に簡単に作ってみましょう!!

材料
 ①市販のロールケーキ…1本 (φ6.5cm・長さ15cmのもので1本)
 ・絞るだけ生クリーム…1本
 ・いちご…1パック (1粒を薄くスライス)
 ・チョコペン…1本 (湯せんに入れ溶かしておく)

作り方
 ①皿に①をのせる
 ②生クリームを絞る
 ③②にいちごをトッピング(尾の方からいちごをのせる) 一段目が終わったら 二段目を重ならない様に
 ④チョコペンでえら、目、口を描く
 ⑤あればマーブルチョコレートやクッキー、こんぺい糖などで飾っても楽しいですよ!!

誠意をこめて安心のお手洗い
 年中無休・24時間体制
(有)大阪屋葬祭
 常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール
 TEL<0569>35-4949 (代表)
 FAX 35-4911

知多の新鮮たまご
 発酵ケイフン
(有)知多エッグ
 知多郡武豊二ツ峯380
 TEL0569-73-6341

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

—自分ドラマつくろう— (49) 岡田 清治

嫁の就職2

「日本でもこれまで国際化ということが言われ続けてきた。高度経済成長の頃は海外に目を向けることぐらいにとらえていた。企業で国際部門といえば貿易、やがて海外進出や外国企業との提携や合弁会社づくりのことだと考えるようになった。」

ところが二十一世紀に入ると、少子高齢化が現実の問題となってきた。これまでの成功体験は通用しなくなって新たな戦略が求められた。

少子化ということはマーケットが小さくなるということだから当然、国内での商売のやり方も根本的に変えないとやっていけない。そこへグローバル化の波が押し寄せ、多くの発展途上国との競争が一段と激しくなってきた。アメリカなどはとくに国内での生産をあきらめ、多くの工場を日本に、やがてアジアへ工場を移転、あるいは委託生産していった。このためアメリカでの就職先は小売店、レストランなど第三次産業のほか、IT産業に移り、独自の製造業は極端なことを言えば、軍備工場と航空機ぐらいになってしまった。」

「日本の企業もアメリカへ進出していますね」
「そうですね。輸出しているより、現地で生産した方がメリットが大きいと判断して進出している。当初は苦労も多かったが、レイオフ(時解雇)が容易にできるなどから積極的に進出、成功している企業も多い」

「逆に先ほど言われたように日本社会にも多くの外国人が入ってきていますね」
「叔父さんのチェーン店にも現場だけでなく、管理職に中国人や韓国人が活躍しているように、今後、あらゆる職場に外国人が働いている風景は普通になると思う。」

「だから世界の優秀な労働者を集めて、語学研修や生活習慣をきっちり教えて期限を設けて受け入れ、企業に派遣すればいいのだが、現行の制度では日本語もろくに話せない外国人が入ってきて、社会の秩序を乱す心配がある」
「私たちの老後には介護も外国人に頼ることになると思います。その時に年金はなくなっているかもしれないから……」

「今でも介護士をアジアから受け入れているが、その試験はすべて日本語で、それもやたらと専門語が多いので、ほとんど受からないと言われている。もう少し考えないと、介護士不足が心配になると思うよ」

「これだけ介護士の人手不足が言われているのに、処遇はよくないですね。普通は上昇するでしょうが……」と舞は一瞬、暗い顔をのぞかせる。

「介護士だけでもないですが、日本人労働者でも一部のエリアを除きますと、ひとりの給与だけでは生活できないのです。このため女性が結婚しようと思っても共働きでないとやっていけません。ところが、都会では保育所が不足してほとんど女性は結婚か出産で会社を辞めています」と舞は話を交える。

「確かに両親に頼る人たちが増えている。経済力のある両親がいれば、同居しながらもやっていると、恵まれた人たちはそう多くない」

「経済力のある両親と同居していますと、無理してまで結婚しなくてもいいと思ってしまうようですよ」

「だから少子化が進む面もある」
「日本の場合、少子化ということだけでなく、高齢化も急速に進んでいますね。しかも日本人の寿命は男女とも世界一に近い水準と言われています。この問題も深刻ですね」



写真：香嵐渓(著者撮影)

「確かに高齢化は医療、介護の仕事は増したが、それらも多くは国の財政で支えているから、いくらカネがあっても」

「だから少子化が進む面もある」
「日本の場合、少子化ということだけでなく、高齢化も急速に進んでいますね。しかも日本人の寿命は男女とも世界一に近い水準と言われています。この問題も深刻ですね」

「確かに高齢化は医療、介護の仕事は増したが、それらも多くは国の財政で支えているから、いくらカネがあっても」

「だから少子化が進む面もある」
「日本の場合、少子化ということだけでなく、高齢化も急速に進んでいますね。しかも日本人の寿命は男女とも世界一に近い水準と言われています。この問題も深刻ですね」

「確かに高齢化は医療、介護の仕事は増したが、それらも多くは国の財政で支えているから、いくらカネがあっても」

「だから少子化が進む面もある」
「日本の場合、少子化ということだけでなく、高齢化も急速に進んでいますね。しかも日本人の寿命は男女とも世界一に近い水準と言われています。この問題も深刻ですね」

「確かに高齢化は医療、介護の仕事は増したが、それらも多くは国の財政で支えているから、いくらカネがあっても」

「だから少子化が進む面もある」
「日本の場合、少子化ということだけでなく、高齢化も急速に進んでいますね。しかも日本人の寿命は男女とも世界一に近い水準と言われています。この問題も深刻ですね」

「確かに高齢化は医療、介護の仕事は増したが、それらも多くは国の財政で支えているから、いくらカネがあっても」

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX: 0569-34-7971
メール: takamitsu@akai-shinbun.net

プロフィール

著者・岡田清治おかせいじ
一九四二年生まれ ジャーナリスト
(編集プロダクションNEXT108代表)
著書に『高野山開創二百年 いっばんさん行状記』『心の遺言』あなただけの社員を引寄せますか!『リヨンで見た虹』など多数



「足らない。このため国家財政は膨大な借金を抱えることになってしまった。」
先日もワシントンDCにいる友人(ガイジンと呼んでいる)からメールがきた。

「ご存じのようにこちらの医療制度は日本と異なり、適切な保険に加入していなければ医療費はケタ違いの高額で医者にかかるには決心がいります。それと比べ日本の健康保険制度は本当に有難く感じます。日本もこれからアメリカ並みの医療制度の導入が話題になっていると聞いていますが、本当でしょうか。私はまだ日本の健康保険を頼りにしているので心配しています。」

「いろいろ聞きますと、日本の健康保険制度はずばらしいと言いますね」
「韓国でも介護保険など福祉面で日本に相当、遅れをとっていると言います。いいのは財閥企業に属している一部の人たちだけで、社会全体が不安定だと聞きます」

「そうですね」
「日本の健康保険制度のおかげで長寿命となったが、その代り財政負担は増える一方であるから、現状維持は困難になる日がくるだろうね」

「そのために消費税を上げたのでは」
「そうだが、追いつかない」
「しかも混合診療が導入されると、この分野でも格差が広がるでしょうね。お金持ちしか高度医療の恩恵を受けられなくなる心配があります」

「だから保険会社はそうした医療に対応した商品開発を狙っている」
「保険料もバカにならなくなりますね」
「国民皆保険制度が崩れる心配があるということだ」

「そうですね。考えさせられますね」
「ところで日本は民主党政権から自民・公明の安倍連立政権が続いていますね。これからどうなるか見ておられますか」

「将来予測は立場や見方によってさまざまでしょう」
「叔父さんはどう見られますか」
「そうですね。いくつか明確になっている指標もある。例えば円安下で貿易収支は一昨年夏以降、赤字の更新を続けている。かつての貿易立国・日本はもはや夢か幻になりつつある。人口の推移も激変している。内閣府によれば二〇六〇年には八、六七四万人になると推計され、二〇一〇年には六千万人前後に減少すると予想される。これはとりもなおさず国内市場が半減することを意味する。景気はどうなる?と誰もが関心を持っているが、日本企業に限れば、国内市場のみに依存している企業は明らかに衰退の一途の心配があるでしょう。その中で競争に勝ち抜き延命を図るか、新たに市場を創造するか、海外に打って出るしかない。というのは有力企業の海外売上比率を見ると、その多くが日本市場をあきらめ海外市場に活路を求めていることがわかる。各業界別にベスト〇を見る

と、多くは海外売上比率五割、中にはすでに九割を越えている企業も少なくない。これらの企業にとって国内景気はほとんど意味をなさない。そういう流れの中で情報は世界中から集めない企業経営ができない。このため必死で国際情報を集めている。

英語はもとより外国語が必須である。情報だけではない。人材も世界中から集めている。三月は入社シーズンだと日本のメディアは紋切り型に報じ、大学や専門学校、高校は就職率で一喜一憂しているが、それも意味がなくなりつつあるように見える。日本河川の流れは速く、もはや同じところに留まることができないという認識が肝要であると思っている」

「そうですね」
「中東の石油資源に恵まれた国では、学費、医療費などほとんど無償で、人々は豊かな生活を送られる。ところがそういう国でもいよいよ3K職場は外国人が担っていて、彼らがいなくなると、国がもたないといわれているそうだ。また海外留学して帰国しても優雅な生活を夢見るだけでまじめに働く若者がいないとその実態を描いた本が評判になっているようだ」

「日本でも裕福な家庭で育った子は、よほど親も意識して育てないと、ふ抜けた人間になっているように見えます」
「やはり親の指導力だね。叔父さんの知り合いで、病院をはじめいくつもの建物を所有、資産運営だけで生計を立てている人がいる。その息子は高校を卒業後、大学をすべったので親の援助で放浪の旅に出て二年間経ったところ、帰国したが何もせず親と同居しながらぶらぶらした生活を続けている」

「私からすれば夢のような生活ですね」
「一方、中小企業を経営していた親の後を継ぐため、工業高校の夜間にしか行かせてもらえなかった友人がいる。彼は向学心に燃えていたが、親は中小企業に教育は不要だと言って、工業高校の夜間に仕事を終えたあとで通わせてもらった。」

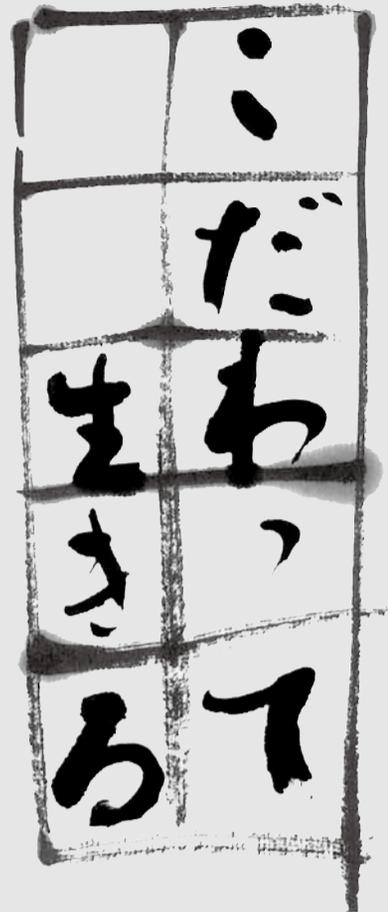
「やがてその会社はIT化の波に乗れず廃業したが、二人の息子を国立大学の工学部に入れ、それぞれ大企業に勤めている。決して貧しい家庭ではないが、親の指導がよかったのか、息子に才能があったからかと思うがね……」
「そうですね、難しい問題ですね」

「真三は話が抽象的で広がり過ぎてきたと感じていた。躊躇したが、思い切って舞が就職をどう考えているか聞いてみた。」
「舞さんは就職がうまくいかなかったことについてどう思っているの?」
「そうですね。文学部というのは専門職としてはかなり厳しいと思いましたが、確かに一般職や営業ならなんとかなるように思いましたが……。それも中堅企業が多いですね」

「一般に企業はエンジニアとか研究員は工学部や理学部が多く、企業によっては大学院生に重点を置いているところも少なくないように思う。文系では経済学、法学、商学で指定しているところがほとんどで、営業とか叔父さんのやっていたファミレス企業では学部は不問のところが多い。ただ、定着率は企業にもよるが概して低い」
「日本の場合、転職は不利だと聞きますが、簡単に転職する人も多いのですか」

「確かにスキルを求めている企業なら転職組も歓迎しているが、一般には不利だと思います」
「だからと言って嫌々、ずっと同じ企業で働くことはできないですね」

絵手紙集



絵文 樫山善久

返文 小林玲子

樫山善久

昭和十一年碧南市で生まれる。
丸栄陶業株式会社代表取締役。
碧南商工会議所会頭。
愛知県陶器瓦工業組合理事長。
全国陶器瓦工業組合連合会理事長などを歴任。
平成十三年藍綬褒章受賞。
平成二十二年旭日小授章受賞。
丸栄陶業株式会社取締役会長 現在に至る。
京都造形芸術大学・通信教育部芸術学部美術科・
洋画コース大学院修士課程一回生。

小林玲子

碧南市に育つ。
西尾市在住
共著「西尾の民話」
童話「サケの子ピッチ」
随筆「海辺のそよ風」
(中経コラム「閑人帳」より)
ミュージカル脚本
「みぐりちゃんのおうち」ほか



キャンパスにて 75才悪戦、苦闘

わくわくと
入学式や
松葉杖

四月、京都造形芸術大学通信教
育部の入学式には、前日我が家の
筋路り出かけ、二階落差の土平か
ら転がり落ち、足を捻挫した為
リソックスは松葉杖の惨めな
晴姿での出席となりました。
入学式は、学友千住陣の式辞、
細川護熙学園長、徳山祥直
理事長以下、学部長や教授の
紹介があり、千住の新入生がイタコエ
と続きました。通信教育部の人
達は、年齢も職業もさまざま世界
も違いますが、芸術への思いが強い
想いを集い、学んでいます。

画家という人は特別な眼の持主なのでしょいか。
御絵に描かれた自画像は後にも
眼があるようにそっくりデス。
素人の私共が描くとすると、自分の後姿がどんなに
いつも猫背でよろよろ歩いているかを知っていても
たぶん若づくりの似非姿になるだろうと思います。
御絵は顔が見えなくても善久様と分かります。
そして堂々と向学に燃えての姿が
神々しくさえ見えて感動です。
何卒楽しみながらのご研鑽でありますように
ご健勝をお祈り申し上げます。
御足の方はもう大丈夫でしょうか。くれぐれもお大切に。

